

氏名	小 橋 賢 二		
授与した学位	博	士	
専攻分野の名称	医	学	
学位授与番号	博 乙 第 2802 号		
学位授与の日付	平成 6 年 9 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	表在性膀胱癌における再発因子の統計学的解析 —表在性膀胱癌の自然史について—		
論文審査委員	教授 折田 薫三	教授 赤木 忠厚	教授 工藤 尚文

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

1965年から1985年までの間に岡山大学泌尿器科において初回治療が施行された表在性膀胱癌336例を1988年12月まで経過観察し(中央値68ヵ月), 初回に膀胱全摘や不完全治療が施行された9例を除いた327例に対して予後に関して検討を加えるとともに, Coxの比例ハザードモデルを用いて初発時だけでなく再発時についても, 種々の再発危険因子を評価した。検討因子として採用したのは, 年齢, 性別, 腫瘍数, 腫瘍の大きさ, 深達度, 異型度, 形態, 再発回数, 手術方法, 再発予防注入療法, 再発予防全身化学療法, 放射線療法, 手術年月日の計13因子である。その結果, 初発時では, 腫瘍数が最も重要な再発危険因子であることが示された。一方, 再発時においては, 再発回数が腫瘍数について重要な危険因子となった。これは症例毎の再発間隔の差に由来するものと考えられ, 腫瘍の多発性ととも再発間隔が, 再発性表在性膀胱癌の予後にとって重要な因子であることが示唆された。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1965年から85年の間に, 同泌尿器科で初回治療を受けた327例の表在性膀胱癌患者を88年末までfollowしている。治療率は70%, 30%は再発を繰り返すか, 膀胱全摘などとなっている。年齢, 腫瘍の大きさ, 治療法など13因子につき, Cox比例ハザードモデルにて再発危険因子を評価し, 初発時では腫瘍数, 再発時には腫瘍数に次いで再発回数が重要

な再発危険因子であることを明らかとした。これは臨床上極めて有意義な業績であり、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。